

保小連携ニュース

10月29日(月)由良川小学校において、八雲保育園年長児と由良川小学校1年生との保小連携事業の公開保育・授業を実施しました。

舞鶴市小学校教育研究会生活科授業研究も同時に開催され、保育所、幼稚園、小学校の関係者46人が参加して、つながり活動を見学し、その後、授業・保育の内容や保小連携事業についての研究会を開催しました。

また、午後からは、保小連携事業モデル園の保育士を対象に日常の保育の中で「その日しかない子どもの姿」を切り取り、考察する記録の取り方や活用方法について学びました。

事業内容

- 9:30-10:40 公開保育・授業「つながり活動」
- 10:40-12:00 生活科研究会(小学校生活科教諭、保育士)
 1. 公開授業説明:由良川小学校 教諭 佐藤 美智子 氏
 2. 講評:鳴門教育大学大学院 教授 木下 光二 氏
 3. 生活科における保幼小連携について意見交換
- 12:40-14:40 保小連携事業モデル園保育士研修会
 1. 公開保育説明:八雲保育園 保育士 迫田 顕子 氏
 2. 講評及び記録について講義: 鳴門教育大学大学院 教授 木下 光二 氏

子どもにゆだね、見守り、まかせていた

教えないで徹底的に支えている

木下教授の講評より

子どもを信じているからできること

由良川小学校・八雲保育園の真骨頂！

八雲保育園・由良川小学校 つながり活動



場 所:由良川小学校 体育館

学年等:由良川小学校

第1学年 11人

八雲保育園

年長児 23人

単元名:くさきも わたしも ころもがえ
～わあい みのった!～

内容:小学生1人と年長児2人で

グループ「きょうだい」として活動

- ◎一緒に収穫してきたさつまいもを使用
- ◎「さつまいものえいよう」の話を聞く
- ◎今日の目当てと活動の流れを確かめる
- ◎調理(切る、バターをぬる、焼く)
- ◎さつまいもと飲み物を仲良く分ける
→食べる

特徴:

- ◎子どもたちの主体的な行動を促すため、教師や保育士側で食べ物や飲み物の数を揃えたりせず、まとめて置いておき、子どもたちが必要なものを選んで使用する。
- ◎「仲良く分ける」ことを伝え、どんな方法で、どのような考え方で解決するのか、子どもたちが試行錯誤しながら取り組む。
- ◎導入の「さつまいものえいよう」では、保育園の給食員や小学校の校長先生、木下教授も登場。いろんな人が関わる。



仲良く分けて



食べるのに真剣です「おいしい、おいすぎる」
「もう一回つくりたい」



さつまいものにのせたバターが焼くととけだします。目の前で起こる物質の変化に楽しい笑い声が響きました。

- ・数えて同じ数にするきょうだい
- ・こげていないきれいなものを園児に、こげていたのを自分に分ける子
- ・私は〇個でいいとゆずる子...

生活科学研究会

各校出席者の意見から

授業説明 由良川小学校 佐藤先生から

◎プランについて

夏の提案時にすでにカレーとさつまいもの2つのプランを持っていた。さつまいもは、ねらいがしぼりやすく、他教科と連携しやすい。カレーは家庭との連携はできるが、見所が多すぎてしぼれない。どちらも一長一短であったため、木下教授に相談してさつまいもに決定した。

◎本時までの動き

保小で一緒にさつまいもを堀りに行った。保育士から導入があり、一つのつるから7つ出ることや、つるの長さを確認したり、感動がいっぱいであった。ただ掘るだけの体験の子は、茎からもが直接生えている絵を描いていたが、こちらの体験をした子は、根から7個生えている絵が描けていた。

八雲保育園では毎週金曜日をカレーの日として、いもなどを子どもが切っているの、今日もうまく切れていた。「分ける」などの流れを示し、切り刻むなどの指示はしていないが、細かく切れていた。急にやろうとしてもできない。

◎今回の活動について

- ・導入：さつまいもの栄養でふんにしぼった。
- ・本編：切る、焼く、ふるまう
…兄弟でゆずりあい協力しながらできた。
- ・おすすめ：自分達が食べた後、学校のみんなにふるまうので、自分達用に調理した時に失敗したとしても、本時の中で、ふるまいのときにリベンジできる。

◎保小連携のエピソード

以前、つながり活動でどんぐり拾いに行った際、小1のAちゃんが「きょうだい」班の年長児の子のバケツに拾ったどんぐりを入れてあげて、自分のは空であった。尋ねると「〇〇ちゃんに全部あげた。」と楽しそうであった。帰りのバスでそのAちゃんの隣に座った同じ小1のBちゃんが空のバケツに気づき、自分のどんぐりを入れてあげた。私の心があつたまつた。木下教授から保小連携は実は小学校がお得と聞いていたが、1年生がお得をもらった一件であった。

- ◎これまでの流れがあって、つながっている。バターのところ笑顔があふれ、気づきが生まれている。やり直せる活動というのは大事。その時間をしっかりとることで深まっていく。
- ◎1年生のどの子も活躍できる。普段なら活発な子だけが活躍するが、みんながお兄さんお姉さんとして活躍していた。
- ◎自分達のためでなく全校にふるまうことにして意欲付け、活動を深めている。思考を促すために食べ物などを数や量を決めずに置いておくのがよい。年長児が小学校に行くとき一番下になるが、保小連携ではお兄さんお姉さんとして活動できることがよい。
- ◎導入で、でんぷんという難しいことをとりあげていたが、給食の人や校長等いろんな人が登場し説明してくれ、わくわくした。
- ◎制限なしにやれる、失敗してもよいのがいい。どんな切り方でもOKで、その子なりの思いで切っている。先生方の助言を聞いて学ばせてもらった。

講評(抜粋):講師木下光二氏(国立大学法人鳴門教育大学大学院教授)

- ◎舞鶴市全体の前進につながったと思う。
- ◎教えないで徹底的に支えている。子どもを信じているからできる。今日は、由良川小学校・八雲保育園の真骨頂であった。子どもにゆだね、見守り、まかせていた。
- ◎夏からこのプランを考えているのがすごい。二つの案で迷い、子が活躍できるようにと考えて、悩み、ものすごく多くの時間を費やしているのがすごい。
- ◎年長児の中に小学校のイメージができていく。小学校に安心して入ってくる。受ける小学校もやりやすい。
- ◎朝、いも洗いの様子を見た。喜々として洗っていた。普通は保育園が来てから一緒に洗うが待たなかった。小学校の時間制限があり、先に洗っていた。そこへ来た保育園児が加わる

- それでよい。あわせないで、保・小それぞれが自分の時間を貫くのでよい。
- ◎導入はシンプルでよかった。校長も講師も使えるものなんでも使う。これは保育園が環境を生かして保育するところを取り入れている。子どもが人を信頼できる。
- ◎一つの集団になっていた。それができるのはそうはない。道具も自分たちで取りに行く。準備しないのがよい。
- ◎一番感心したのは1年生のAさん。包丁をまな板に隠すようにして持っていく。人にけがをさせないため。さり気ない行動だがすごい。
- ◎(学校みんなにふるまうためよびかけた)放送も良かった。1年の学びだけでなく保育園、2-6年、先生ともつながりを意識している

- ◎笑って楽しそうにしている顔、保小活動でそうはない。年長児がいもにはしをさそうしていると、保育園の先生が「天才、天才」と声をかけていた。やめなさい等の声がないのがよい。
- ◎保育園で毎週金曜日にカレーの日として野菜を部屋に持ってきて切って給食に入れている。生活と学びがつながっている。小学校でも工夫すれば可能。
- ◎幼児教育や保育所から小学校の先生が学んでいるのがすごい。
- ◎1年生ができることを全部とらず、ゆずってあげるような関係が結べていた。幼児とうまく関係が結べると、国語の行間がわかったり、算数の文章問題が分かる。学習にもつながる。相手の思いが分かる子になる。

その日しかない子どもの姿・感動を切り取る ～保育の可視化 記録のススメ～

保育の質の向上のために(記録の効果)

- ◎子どもの主体的な発見・行動に気づくことができる<子どもの成長>
- ◎小学校、保護者、他の保育士との情報共有が可能
- ◎保育や保育士の関わりを見直すことができる<保育士の成長>
- 子どもの発見を発展させる効果的な環境、声かけ。
- ベテランから若手へ保育をつなげる。

ここでいう記録とは

日常の保育の中の一場面、子どもの態度や言動、やりとりなどを記述したもの。考察を加えることで、上記のような効果が得られる。

木下教授からモデル園保育士を対象に「記録」について講義いただきました。

記録のヒント

- ◎子どもの見せてくれた姿を残しとなくちゃもったいないという思いで記録として残す事が大切。
- ◎記録で書きたいことを写真で撮っておく。その中からエピソード記録を2つか3つ残す。写真を元に思い出し記録をとる。あれはすごかった、感動した、ということの主観でかまわないので、残していく。
- ◎できるようになったことや変化を残していくように。伝えることを意識して「生き生き」「楽しそうに」等は使わず、誰にもわかるように、伝わるように書く。
- ◎幼児教育を正しく理解してもらうためにも記録は大切。
- ◎気軽に書く、みんなを持ち寄り、保育の力量をつけていく、高め合っていく。自分で書いてベテランの先生に見てもらって学習し合っていく。

参加者感想から

- ◎記録すると保育が見える、わかってくる。見直しにつながる。導入にもいろいろな視点、展開、ポイントがあるので、どのエピソードを綴るのも楽しい。何より保護者に保育を、何を大切にしているのか等、発達なども知ってもらえる良い媒体にもなると感じた。
- ◎初めて書いて気づく事もあった。子どもの様子をみているだけのようで、実は自身の保育内容や環境の見直しもできた。記録を通して、保育が充実していくのだと感じた。
- ◎記録の大切さ…ものすごく伝わった。保育の為の記録。保育の見直しができる。記録の難しさだけでなく、子どもに考えさせる言葉がけ…簡単そうで難しい。つい答えを言ってしまうときがあるが、つながり活動を受けるにあたって一息置いてから言葉がけするよう心掛けられるようになった。